「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 大嶋那月　年齢 12 歳　職業・学校名 石神第二小学校

私は、その時1年生でした。地震の大きいゆれ自体はあまりおぼえていませんが、物がたおれたり窓がわれたり、被害が大きかったという事はおぼえています。すぐ福島をでる事になり、千葉県にある祖父の兄の家にいきました。スーパーや学校、公園等が近くて、友達もたくさんできました。よく遊び、笑いあうような友達ができ、以外と楽しくくらせました。でもやっぱり、故郷には帰りたくなりました。その時、ニュースに福島でのボランティアをして下さっている人達がいました。『こんなにがんばってくれているのに…。』と、私は思い、帰る事になりました。近所の人達が多くの物をくれました。やさしくして下さった事に感謝して、今このようにしてくらしています。まだまだいたクラスメート。早く帰ってきてね。と、願っています。

多くの生命と居所をうばった震災は、逆に私達にさまざまな人と支え合う事と協力する事、人の思いやりを教えさせてくれたと私は思います。

（20文字 × 20行）

氏名　岡田愛　年齢　11歳　職業・学校名　石神第二小学校

　私は、当時1年生の時に東日本大震災にあいました。その時は、帰る準備をしていました。急に大きなゆれにおそわれました。
　家に帰ってニュースを見せられました。そこには、津波で何万人もの人が亡なったと知りました。私の学校は山の方にあったので、津波のひがいはありませんでした。しかし、海の方では、大きな津波のひがいに合っていました。私達はめぐまれているんだな思いました。私は3年間仮設住宅にいました。
　学校や仮設住宅では、しえんぶっしを何回も、もらいました．とてもありがたかったです。南相馬市は、いまだに帰れない人々が大ぜい、います。仮設住宅で亡なった人は、もう1度家に戻りたいと願っていたと思います。津波で亡なった人も同じです。自分は何も悪いことなど1度もしていないのに、急に楽しく明るい未来が失われていくのですから。
　私は、元通りの南相馬市にしたいです。もっと南相馬市に、遊びに来てほしいです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 相良 和輝　年齢 11 歳　職業・学校名 石神第二小学校

2011年の3月11日に東日本大震災がありました。平成23年におこりました。

ぼくは、大震災のときに学校にいました。そのころはまだ1年生でした。

こわかったけど先生にいわれたことをまもり安全に外にでられ本当によかったです。

そのあとに群馬県にひなんしました。おんせんセンターというところにぼくはいきました。そしてそこで半年ぐらいいてそのあとアパートにいって1年ぐらいすんでからこっちに帰ってきました。それが3年生の10月でした。もとの小学校にもどりました。

復興への想いはおんせんセンターやアパートなどをてはいしてくれたのでぼくは、ありがたいと思いました。

いろいろなしえんとかもらっているのでそれもありがたいとぼくはおもいます。

ぼくは、もしちがう場所ちがう地域でじしんがおこったりしたときにはちゃんとしえんしたりしたいとぼくは、おもいました。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 荒 博文　年齢 12 歳　職業・学校名 石神第二小学校

僕の考える東日本大震災からの復興の想いは、国は、県や市と協力して復旧を進めるために、国会の審議を経て、5月2日に第一次補正予算を成立させました。これにより、仮設住宅をつくって、被災した人々が、そこへ「移れるようにしました。」
と言う復興の願いや想いです。

東日本大震災によって深刻な被害をこうむった日本は、国際社会から多くの支援を受けました。20以上の国や地域から救援隊が日本に来て、行方不明者を探したり、医りょう活動やがれきの撤去などを行ってきしているという。

復興の願いや想いです。

多くの支援を受けた被災地では、感謝の気持ちを伝えるメッセージが、さまざまな方法で出されている想いです。

東日本で復旧が進んでいるので僕が20歳、30歳になっていくとともに、僕もいろいろなことをやりたいと思いました。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 渡部友紫　年齢 12 歳　職業・学校名 石神第二小学校

　ぼくは今、仮設に住んでいます。せまくてさわぐと近所めいわくなので、あまりさわげません。自宅と仮設行き来して、学校に通っています。ぼくの家の後ろには、仮置場があります。ガチャガチャとうるさいです。それに、ダンプなどもいっぱい来て、ひかれそうになったりします。そのため、あまり外出をひかえめにされました。外出ができない理由はそれだけではなく、最近、じょせん作業員の変な事件がありました。テレビや、うわさで、変な事件のことを、耳にします。

　そこで、ぼくは、じょせん作業の早期化をしてほしいです。早く、ひなん区域に、じょせんした土や、じょせんした草を早く、追いて来てほしいです。

（20文字 × 20行）

東日本大震災が平成23年の3月11日に起きてから、ぼくは、茨城の祖父の家に家ぞくでいきました。行った頃は、停電していて、みんなで洗う水をバケツの中から少しずつとり節約して使っていました。4月から新しい友達と学校生活を送りましたが、父が仕事ができるようになり、原町の家に戻りました。家に帰ってからは、バスに乗り鹿島の上真野小学校に通っていましたが、やっと自分達の学校が除染をして放射能が低くなり校庭でも運動会ができるようになりました。震災から4年が過ぎて、除染のために動いているトラックがとても多くなりました。復興のためなのですが作業員の人もコンビニで多くなり、渋しゅもたくさんおきて、交通量がふえて、事故には気をつけないといけないと思いました。少しずつ友達も戻ってきて、ぼくはうれしいのですが、福島の原子力発電所の事故はまだまだ終っていないため、放射能事故は絶対に起こしてはいけないと思います。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 今野日向　年齢 11歳　職業・学校名 石神第二小学校

東日本大震災の発生は、2011(平成23)年3月11、午後2時46分、宮城県沖を震源とする地震が発生して、岩手，茨城，ぼくがすんでいる、福島県などが、広い範囲で大きな被害が出ました。津波によって、亡くなってしまった人がいます。北海道1人、青森県、3人岩手県3952人、宮城県8381人、福島県1360人、茨城県23人、千葉県、東京都7人、山形県2人、栃木県4人、群馬県1人、神奈川県は4人でした。死亡者数は、全部で、1万3756人でした。行方不明者は、2668人で、避難者は、335196人でした
ぼくは、原子力発電所を復活してほしいとおもいました。次に、除染作業員が働いています.14件の事件があると分かりました。与原町区は、大変になってるとぼくは思っています。外国からもくるといわれているそうです。でも、お仕事なのでしかたないけど。でも、除染作業員も、原町の人もいっしょに豊かにくらしていきたいと思いました。

（20文字 × 20行）

匿名希望

　東日本大震災が起き、交通が不便になったり、近くのお店などがなくなりました。南相馬市はひなんしないといけないのが解じょしましたが、他の地区はまだなかなか多くは入れません。南相馬市の方がひ害は少なかっただけでお店などはなくなってしまいました。

　私は、原子力発電所の爆発でいわき市にひなんしました。初めていわきの学校に行ったとき、友達を仲よくやっていけるかとても不安でした。いわきでも大きいじしんがまた起こったりしました。その時、また東日本大震災のようなことが起きてしまうのかと思いました。

　今後、今やっていないお店などが再開したり、交通をよくした方がいいと思います。特に交通は、津波でこわれた道路や橋，せん路を直すことで、また人がもどってこれる町などになると思います。さらに、空気中にある放射線量を下げた方がいいと思います。これらを実行し、いい未来にしていきたいです。

(20文字 × 20行)

氏名 小椋洸汰 年齢 12 歳 職業・学校名 石神第二小学校

復興の思い・想い

3月11日東日本大震災がおきました。ぼくはそのころ1年生でした。とつぜんガタガタと言う音を立ていそいで校庭に出ました。そしておじいちゃんがむかえにきてくれました。実たいひどい状況でした。あちこちで津波がおきたのです。しかも、ぼくは、地震速報の音にトラウマになってたのだ。色々な養殖がだめになり、母・父をなくし一人でとぼとぼ歩るき死ぬ運命の子どもはぼくは、こう思うと悲しくて仕方がありませんでした。しかし、ぼくは負けませんでした。3年生のころふるさとに帰ったあと、おじいちゃんといっしょに、じょせんの手伝いをしました。トラウマは治らず苦しみの日々をのりこえた事もありました。そしてぼくはこう思いました。「ぼくは人々のためには役立てないのかもしれないけど今、自分が精いっぱいできること、やるべき事これをがんばるべきなのだ」です。これから4年かんぼくはがんばります。」

(20文字 × 20行)

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤亜海佳 年齢 12 歳 職業・学校名 石神第二小学校

震災がおきた日のことは今でも覚えています。わたし以外の家族は、家にいました。

ひいおばあちゃんを津波でなくし、五年もたって会えない友だちもいます。

復興への思いは、まず南相市の人々が元いた場所に帰ることだと思います。

しかしそれは、とてもむずかしいことだと思います。なので人々が今いる場所で、幸せにくらすことが復興だと思います。

でもふうひょう被害などで苦しんでいる人たちや、家族を亡し、かなしみからぬけだせない人たちの心のケアをすることも大切だと思います。

また人々だけでなく、商業のことも考えていく必要があると思います。

震災がおきた日から考えると、福島は復興はすすんでいると思います。これからは子どもも、協力して復興を進めていきたいと思います。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 杉江 莉咲　年齢 12 歳　職業・学校名 石神第二小学校

震災がおきて3年と9ケ月たっても、津波にあってなくなった人もいっぱいいました。あと、いまでも、じしんがおこるとあのときのじしんがおもいうかんでします。

私たちが、一年生のときおこってとてもこわかったことが頭の中にのこっています。

わたしは、なんでじしんなんかあるんだろうと思いじしんや津波などもなくなればいいと思います。

今、ここにいる人はみんなじゃなくてほかの人もほかのちいきにいてまだもどってこない人たちがいてみんなそこで幸わせにくらしているんだと思います。

げんばってきた、ふあんな人もいっぱいいるけれども、一人一がみんながんばっているきがすると思います。

みんな全員がもどってきてくれるのがとてもうれしいです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 児玉麗希　年齢 12 歳　職業・学校名 石神第二小学校

ぼくは、当時1年生の時でした。3月11日の帰りの会をしていた時に、地震がなった。始めは、小さかったけれど、どんどん大きくなりました。ぼくは、少しパニックになりました。そして、地震がおさまると、校庭に行きました。先生たちが、電話してむかえをきてもらうようにしてくれました。それまでみんなであつまり、先生から毛布をもらいました。むかえがくるとすぐ車に乗って、家に帰りました。家につくと、家の中はぐちゃぐちゃで、犬は、家にこもっていました。そしてすこしたつと、いとこのお父さんがきて、新がた県にいきました。1～2年間いて、福島県にもどりました。まえいた人がいたり、いなかったりして、うれしいのか、うれしくないのか分かりません。だけど友達がいるのでしあわせです。

（20文字 × 20行）

氏名　早川　萌里　　年齢　12　歳　職業・学校名　石神第二小学校

　東日本大震災から、4年9カ月が経ちました。東日本大震は、わたしが1年生のときに起きました。東日本大震災が起きたときは、地われなどが起きて、死ぬかもしれないとわたしは、思いました。

　でも、わたしは、いきていました。そのときわたしは、きせきが起きたのかと思いました。

　そのあと、わたしは、宮城県にひなんをしました。はじめは、学校に行くのがいやだなあと思っていました。だけど、学校に行ってみると、みんなが、わたしを、ようこんで、でむかえてくれました。そのときのわたしはとてもきんちょうしていたので、作りわらいしかできなかったけど、つぎの日、学校に行ってみると、その日も、みんなが、ようこんで、でむかえしてくれました。うれしかったです。そのとき、わたしは、この町にきて、よかったと思いました。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 水野晴斗　年齢 11 歳　職業・学校名 石神第二小学校

　3月11日東日大震から今に至るまでさま
ざまな人々からの協力のおかげで元の町をと
りもどしつつありますが災害によってなくな
っていった人々がもう1度立ち上がることはで
きなく何百人もの人々がなくなりました。そ
して災害の地にも放射線がとびちってただいで
当時は外にでることさえ制限されていたところ
地の県市区町村の人々の協力により元に現
状態、取りもどしつつある今では福島県は今
後どうやら未来に進むできかを考えるべきだ
と思います。今の問題は、1人員不足が1つ
2つめは放射線であることの原因だと考えら
れます。町の中心部にいっても災害後にくら
べ開いているお店が減っている気がします。
1つめと2つめは関係があり放射線が心配で帰
ってこない又こ太ないのではないでしょうか。
ですが今放射線の少ない所まで人員不足まで
落ちいってますぼくの意見では、子ども～大
人まで楽めるイベントを、考え実際に実行す
る必要があるのでは、ないのでしょうか。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 伊藤匠海 年齢 11 歳 職業・学校名 石神第二小学校

ぼくは、この東日本大震災の発生によってく
011年3月11日はぼくが春休日になると
き学校から家にかえる時地震がおきて、机(兄)
にかくれてました。
気仙沼市では、大きな地震の直後に災害対策
本部を設置して、避難所の開設や被害状況の
確認などの指示を出しました。
避難した住民のための水、食料、仮設トイレ
なども、宮城県や災害時相互応援協定を結ん
でいる他県の市などに手配を要請しました。
宮城県でも、被害状況をつかむための情報収
集を行うとともに、災害救助法を適用してい
ます。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 斎藤芽衣　年齢 12 歳　職業・学校名 石神第二小学校

私は、震災があってから１度会津にひなんをしました。近所の人達はやさしく、学校では友達も出来まし。支援などされてきたので、私も今後震災にかんすることに、ふれていきたいと思います。

まずは、今私が住んでいる福島県はもどりたくてももどれないのが、今です。放射線もあって子どものためを思って帰らない人もいれば、ひなんする地域にもとの家ががあり帰えれない人もいます。できるだけ早く安全な地域にしていきたいです。

それと、福島の未来は、みんながもっと住みやすくなっていて、かっきずけているようにしていけたらいいと思います。そのためには、私達が大人になったら、社会におけるすばらしい人になるようにしなければなりません。そのためから、私達は、さっき書いた通り社会に役に立ち、そして福島の未来をえがけて、安全な地域にできる人間になりたいです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名　鈴木吉洋　年齢　12　歳　職業・学校名　石神第二小学校

　ぼくは1年のときじしんがおきました。じしんがおきてどんなまちになるだろうか、ぼくはかんがえましたよあぶなかったとおもいました。これからあんぜんなまちになってほしいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 塩田 柚　年齢 9 歳　職業・学校名 矢吹小学校

968

あの時わたしは、四季ほいくえんにいました。少ししか、おぼえてないけど昼ねの時間ですごく大きくゆれたのでおどろきました。

その後、えんちょう先生の放送で、えんていに昼ねのフトンを、頭におうびながらひなんしました。

ひなんした後もゆれがまだつづいて、わたしは、こわくてなかのよい友だち三人とよりそいながらべったりとくっついていました。

十時間たって、ママが会社からむかえにきて、家にかえったらテレビがたおれて、皿がおちてわれてました。

その夜、とうちゃんとママのけいたい電話やNHKのさいがいじしんのチャイムがうるさかったのがいまだにおぼえてます。わたしは、あの音がうるさくてねむれませんでした。

これからあの時の、思い出を、わすれずわたしの姉弟につたえていこうと思います。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐久間正悟　年齢 10 歳　職業・学校名 矢吹小学校

ぼくは、東日本大震災が起こった頃は、ようち園児でした。ようち園から帰って来て、おじいちゃんちにいました。茶の間でおじいちゃんと、テレビを見ていると、少しずつゆれ始め、だんだんゆれがはげしくなり、とだなの食器が落ち始め、ぼくは、こたつの下に、もぐりこみました。ゆれがおさまり、周りを見わたすと家の中の物が散らかり、かべがわれ、屋根からかわらが落ち、家や庭のじょうたいは、ボロボロでした。そして、ぼくが、こたつの中にもぐっている時は、とてもこわかったです。なので、もうこんな地しんは、起きてほしくないと思いました。

あの時のこわかった事は、いつまでも忘れられません。そして、あんな地しんは、もう体験したくありません。これからは、地しんに向けての訓練や対さくを自分達で考え、工夫していきたいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 本宮 夢奏　年齢 9歳　職業・学校名 矢吹小学校

　あの日、矢吹ようち園にいてみんなで楽しく遊んでいたそのときです。とつぜん大きなじしんがきました。みんなでテーブルの下にもぐりました。その後、いそいでバスの中ににげました。ママがむかえにくるまでわたしは、とてもさみしかったです。家に帰るとものがいっぱいたおれていました。ママのおなかには赤ちゃんがいてたいへんだったけど、車の中でパパが帰るのをまちました。みんなで車の中でひなんしていましたが、パパのじっかにひなんしました。その後もたてものがゆれてこわくてあまりねむれませんでした。その日から新しいアパートにひっこすまでパパのじっかにいました。とってもこわかったけど家族がたくさんいたのでちょっとだけ安心でした。家族がみんなぶじでよかったです。ママのおなかの中の赤ちゃんもぶじにうまれました。これからも家族が安心してくらせるふく島になってほしいです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 くさのげんき　年齢 8 歳　職業・学校名 知久小学校

平成23年3月11日に、大きなじしんがおきたときぼくは、まだちいさりとさでした。そのときぼくは、そとにある大きな木の下にかぞくみんなでにげた。とてもこわかった。じめんに大きなひびもはいって、うちの中も物がたおれたりした。

そゆうおもいはもおしたくわないです。

みんながあんしんしてくらせるようなまちになってほしいです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 曽我 好未　年齢 8歳　職業・学校名 矢吹小学校

東日本大しんさいは、わたしが4才のときおこりました。じしんはっせいのとき、わたしは、ママと買いものに、行っていたので家には、いなかったのですが、生れたばかりの犬が家でるすばんをしていました。犬がしんぱいで、あわてて家に帰りましたが、いつもいる犬小屋に、犬はいませんでした。夜おそくまで近所の人にも手づだってもらって、さがしましたが見つかりませんでした。テレビでは、家族をさがしている人がたくさんいました。それを見てわたしは、不安になりないてしまいました。その日の夜おそく、家の犬は、おし入れにいるのを見つけてもらいました。ガタガタふるえて、とてもかわいそうでしたが、けがをしなかったのでよかったです。テレビにでていた家族の人たちも、はやくみつかってほしいなぁと思います。今回のじしんでたくさんの人に、助けてもらえたので、近所の人でこまっている人がいたら助けてあげたいと思いました。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 おざき けい　年齢 7 歳　職業・学校名 矢吹町立矢吹小学校

わたしは、じしんのときまにのってておひるねにいっていました。ねむっていてわからなかったけど、どうろがでこぼこになってかえれなくなってしまいました。おじいちゃんがさがしにきてくれました。あとできいたら、おじいちゃんはとてもしんぱいしていたみたいです。やっとおうちにかえれたとき、おかあさんは、あんしんしてないてしまいました。

そのあと、わたしとおかあさんは、にいがたにいきました。おとうさんとはなれてくらすのは、とってもさみしかったです。

にいがたのようちえんでおともだちができたけど、おとうさんがいないことがさみしかったです。

いまは、みんないっしょでたのしいです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名　井上黎　年齢　12歳　職業・学校名　矢吹小学校

　ぼくが震災で体験したことは家に帰えったら、たながたおれて、水そうはわれてどあがあけられなくなりました。家がこわれていて、とても悲しいです。学校ではすごくゆれてこわかったです。なので毎日じしんにそなえて、かいちゅう電とうやろうそくなどをそなえて、食べ物をカンパンをそなえればいいと思います。だからもしかしたらじしんがくる大阪や東京も東日本大震災がきたので、ちゃんと毎日毎日そなえたらいいとおもいました。

　ぼくの復興への想いは大きな津波やじしんでこわれた市町村をちゃんと新しい環境をつくってほしいとおもいます。理由は、かえりたい人もいるし、なおさないとただの草ばらになってこまる人もいてかわいそうだから早やく地震でうけたひがいをなおしてほしいと思うので、福島県全体を復興してほしいと思いました。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名　大竹　那々帆　年齢　12　歳　職業・学校名　矢吹小学校

　私が1年生の3月11日、教室で帰りの会をしていた時にじしんがありました。私は大きなじしんになるとは思いませんでした。でも机の下にもぐっている時にだんだん大きくなってきてたなの中のランドセルや水とうが落ちてきてすごくこわくなりました。じしんがすこし小さくなってから放送で外にひなんしてくださいという放送が流れました。私はこわくてすごくあせりました。外のコンクリートにはひびがはいっていて、校庭には全校生があつまっていました。担人の先生がランドセルやぼうしなどをとりに行っていて、その間にお父さんがむかえにきてくれました。私はすこしほっとしました。夜は家には帰らず家族が働いている所でねました。これからは東日本大震災で悲しんだ人々に元気になってもらいたいです。そして福島県の人々がいつもえがおでいられる県になってほしいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 中畑　果奈　年齢 12 歳　職業・学校名 矢吹小学校

　2011年3月11日午後2時46分に、東日本大震災が起きました。私はまだ1年生でした。帰りの会をやっている時に、おこりました。初めて、こわい思いをしました。先生は、「机の下にかくれなさい」と言って、ひっしでした。震度7でとても大きかったです。みんなびっくりして、泣いたりしました。私は、家の人がだいじょうぶか心配でした。放送で「校庭に出なさい」と言われたときは、早く家に帰りたいと思いました。お母さんがむかいにきてくれました。家に帰って来て、家族がぶじだったので良かったです。今後進むべき未来は、自然豊かにしていきたいと思っています。私は矢吹町にすんでいるので、自然豊にしていきたいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大寺 健人　年齢 12 歳　職業・学校名 矢吹小学校

「キャー」「こわいよー」教室から聞こえる悲鳴。泣き出す友達、そのしゅん間怖くて体が震えました。揺れがなかなか止まらず、教室がこわれてしまうかと思いました。やっとの思いで校庭に逃げ出す事ができました。校庭には1年生から6年生まで全員が集まりました。先生の話を聞いてから迎えに来てくれた母と車で家に帰りました。母の車の窓ガラスは瓦が落ちてヒビが入っていて運転しずらそうでした。帰る途中もへいがくずれ朝の登校風景とは、全然ちがっていました。水は何日もでなくて給水車まで水くみに行ったり、お店には物が無く、今までの生活とは一変してしまいました。

　ぼくも怖い思いをしたけれど、家や家族を失ったり、もっと悲しい思いをした人達がたくさんいると思います。復興は少しずつ進んでいるけれど、心の傷はまだまだいえていないと思います。一日も早く心の元気を取り戻してほしいと思います。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名　角田 奈菜子　年齢　11 歳　職業・学校名　矢吹小学校

私が、東日本大震災を経験した時は、一年生の時でした。私は、地震が起きた時は、一年生の教室にいました。地震が起きたら、とてもゆれていて、とてもこわかったです。すぐに、教頭先生から、「机にかくれなさい。」と、放送で指示を出されて、私をふくめて、友達が、机の下にもぐりました。そして、少しゆれがおさまり、そして、教頭先生に、「安全認確ができたため、校庭へにげなさい。」と、指示が出されました。校庭へ行こうと、した時は、物がたくさん落ちていました。校庭では、校長先生や教頭先生の話しを聞きました。その中でも、泣いている児童の人もいました。そして、お母さんが向かえに来て、家に帰りました。家は、いろんな物が、めちゃくちゃになっていました。とても不安になりました。たぶん、震災を体験した人も、不安になったと、思いました。これからは、東日本大震災の復興のため、未来をよく考えて、生きていきたいと思います。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤弘人　年齢 12 歳　職業・学校名 矢吹小学校

東日本大震災の体験談は家の中がぐちゃぐちゃでこわれて使えなくなった物がたくさんあったりメダカの水をうはこぼれてメダカがひからびてきました。
地震がおきてから1ヶ月は姉ちゃんのうちにとまりました。
復興への想いは、げんぱつが東京電力とりっているから東京に作ったらいいと思います。そうしたら福島で地震がおきても放射線がふかないと思います。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 福田ひなた 年齢 12 歳 職業・学校名 矢吹小学校

東日本大震災が起きた時、私は二年生だった。しかも日直で帰りの会をしている時に起きた。あのころの私は、大震をまじかで見たことがなかったからとてもビックリした。地震がすこしおさまった時は、みんなで校庭にダッシュでいった。その後、学校の中の物がどんどんおちたり、こわれていった。そのころ私は、友だちとくっつきながらそのしゅんかんをじっと見ていた。私の親は仕事中だったので友だちのお父さんにおくってもらった。家について親とあった時、さびしかったせいかなみだがとまることなくでてきた。実は私の親もないていた。その時、「私のこと本当にしんぱいしてくれてたんだな」と思った。この東日本大震災は今でもおぼえている。逆にわすれられない。でもこれも一つのけいけんにもなった。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 矢吹翔太　年齢 11 歳　職業・学校名 矢吹町立矢吹小学校

「ガタガタガタガタ…」

3月11日、2時46分、東日本大震災が発生した。当時1年生だったぼくは、とっさに机の下にかくれた。それと同時に急にこわくなった。家はだいじょうぶか、家族はだいじょうぶか、など、いろいろな心配がこみあげてきたからだ。ゆれがおさまりじいちゃんがむかえにきてくれて車に乗った。そしたら

「翔太、けがないか?」

と優しい声でじいちゃんが話しかけてくれた。ぼくはやっと、安心した。

すぐに家に入ってテレビをつけ、ニュースを見たら、震度6強という強いゆれで、すごくおどろいたのを今でもおぼえている。あの時は本当にこわかった。

ぼくは、あの時、3月11日は、すごく悲しい日だった。1回の地震で多くの人を失なったからだ。これは、広島、長崎への原ばくとう下と同じように、次の世代にのこさなくてはならない。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 [illegible]　年齢 11 歳　職業・学校名 矢口原小学校

ぼくは、東日本大震災を体験して大変だったことがたくさんありました。1つ目は、お店がやっていなかったことです。お店には、カップラーメンや、野菜生活などしかおいておらず、食べられる物があまりありませんでした。2つ目は、電気がつかなかったことです。電気がつかなかったので、ぼくのいえではろうそくに火をつけてともしていました。だから、電気がついたときはうれしかったです。あとは、れいぞうこも電子レンジもテレビもつかえませんでした。

ぼくは、テレビを見てきずついたことがあります。それは、震災によるゆくえ不明者と死者がとても多いことです。2つ目は、津波で流されてなくなった人がたくさんいることです。2つとも死者がでているというのがとても残念です。ぼくは、たくさんの人にこのことを伝えていきたいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 宍戸 駿斗　　年齢 11 歳　職業・学校名 矢吹小学校

東日本大震災を体験して

宍戸　駿斗

ぼくは、１年生の時に東日本大震災を体験いろいろな建物がこわれたり落ちてきたりしてこわかったです。家に帰ってもじゃ口から水が出なく食事もなかったのでつらかったです。原子力発電所で事故もあり、放射能がとびちり[illegible]汚染して[illegible]などの[illegible]にも[illegible]しました。放射能で[illegible]

[illegible]

います。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 長田未祥　年齢 12 歳　職業・学校名 矢吹小学校

2011年3月11日午後2時46分に東日本大震災が起きた。私は小学校1年生の時で帰りの会をしている時に起きた。始めは少しのゆれだったけれど、だんだんとゆれが大きくなったのでみんな机の下にかくれて様子を見て先生はテレビが落ちないようにおさえて様子を見ていました。ゆれが小さくなった時に先生の指示に従って校庭にひなんをすると全校生がいるので少し安心することはできたけど泣いている人もたくさんいました。その時期は寒くて手袋やマフラーをしている時期でしたがジャンパーも着ないままひなんをしましたが先生がみんなのジャンパーを取りに行きお父さんもむかえに来てくれたし家族に会えて泣くほどうれしかったです。

津波にのみこまれてなくなって悲しい人もたくさんいると思うから、私は家族といれて幸せなのでまたこのようなことが起きたとしても起きる前から人と人との助け合いを身に付けて歩んで生きて行こうと思いました。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 伊藤瑠希　年齢 12歳　職業・学校名 矢吹小学校

これは、ぼくが一年生の時の話です。いつものように、帰りの会をしていると、ゆれを感じ、地震だ!と思った。まだ、どんどんゆれが大きくなり、今まで体験したことがおなにゆれで、とてもこわかったです、みんなが今までに体験したことのない震災。今後、日本でまた、大きな地震が起こる可能性があると、いわれています。福島県では、原発事故もあり、他県にある原発も心配です。ぼくにできることは、震災の体験を伝えていくことです。今後どこで起きるかわからない大地震の被災害を最小限にするため、安全対さくを実しやってほしいです。災害が起きた時に困らないで、ライフラインをしっかりしてほしいです。災害が起きた時どうするか家ぞくとよく話しあってほしいです。

（20文字 × 20行）

986

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 中山海咲　年齢 12 歳　職業・学校名 矢吹小学校

　私がまだ1年生でもうすぐ2年生になるという時に、東日本大震災が起こりました。校舎が大きくゆれてすごくびっくりしました。今までに体験したことない大きなゆれでした。机にかくれておさまるのをまちました。外ににげてむかえをまっているときにすごく不安でした。家や家族はだいじょうぶなのかなと思いました。お父さんがむかえにきてすこし安心しました。家に行くとおばあちゃんと妹がぶじだったので安心しました。家の中はすごく、ぐちゃぐちゃでビックリしました。矢吹町ではなかったけど津波がおしよせてきた地域では、たくさんの命がうばわれてしまったことはすごく悲しいことでした。放射線がある福島県は安心できないというイメージが他の県の人たちに思われてすごく悲しいなと思いました。でもだんだん福島県は前の福島県にもどろうとしているんだなと感じます。あの4年前におきた東日本大震災は大人になってもわすれられない震災でした。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

感じたことや思たことは、かいりのかいをやっていたら、いきなり地震がきてビクッりしました。

おちついて先生にゆうどうされてかいだんを、おりこうていへにげました。

おやがむかえにくるまでこうていでまっているともうふとかがくばられました。しばらくするとお母さんがむかえにきて、気持ちはあんしんしました。

そのあとは、水をちょうたつにいったりおふろになかなかはいれませんでした。学校に行ってにもつをとりに行きました。

もっと早く復興してほしいです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 矢吹 百絵　年齢 11 歳　職業・学校名 矢吹小学校

私は、東日本大震災のときは1年生でした。地震が来たときは、まだ、教室で帰りの会をやっているときでした。みんながいっせいに机の下にかくれました。私は、まず最初に家族の事が頭にうかびました。外に避難したときは、ほんの少しだけ安心しました。でも、地震はおさまらなくて、学校の窓のガラスはわれたり外の木はゆれたり、ミシミシという音がたくさん聞こえてきました。少したってからみんなのお母さんやお父さんがむかえにきました。私は、少しの時間こなくて心配しました。お母さんのお兄ちゃんがむかえに来てくれました。そこから家に帰ることはできなくて、お母さんの仕事場の所に行きました。そこには、みんな集まっていて、私は、いとこのお兄ちゃんにだっこされながらたくさんなきました。みんなに会えたときはすごく安心しました。悲しい気持ちを少しでもなくすために楽しいイベントをたくさんやってほしいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 隠本陽介　年齢 9 歳　職業・学校名 大浦小学校

　ぼくはようち園のころ、東日本大しんさいにあいました。家にいたぼくとお父さんとお母さんとおねえちゃんは、とつぜんのじしんにびっくりして、つくえの下にもぐりました。ぼくはその時とてもびっくりしてこわかったです。そして体育館にぼくたちは、ひなんしました。ぼくはその時、つなみがおこるか、分からなかったです。そして次の日、ぼくたちはおばあちゃんちに行きました。ぼくたちは、そこで1年間すごしました。ぼくは、東日本大しんさいを体験して、大変だったけど、さいごは、みんなで仲よくすごせるようになったのでよかったです。[illegible]の場い、うなみお[illegible]学で[illegible]われない家をたてたり、つなみながいはる大きい木を育ててほしいとぼくは、思います。

　今は、買い物にいけて水がでて、つなみがこないので、今ぼくは、なんでもできてたのしいです。ぼくは、この平和な毎日がいつまでもつづいたらいいなあと思います。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙　　990

氏名 柏原 聖也　　年齢 10 歳　　職業・学校名 大浦小

東日本大しん災は、もっともたいへんなじょうきょうで、いえもなくなったところもあったし、いえにくらせないで、ひなんじょにとまっていたり、東日本大しん災はとっても人にはほんとうにつらいてきたとおもいましたあとは。つなみで人がなくなってしまったりしたり、あとは、びょうきの人たってひなんしなきゃいけなんて。ぼくがそうぞうすると東日本大しん災はとってもつらいことだといまでもしっている人はまだまだいっぱいいるとおもいます。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙 991

氏名 大野 翼　年齢 10 歳　職業・学校名 大浦小学校

　東日本大しん災は、いろいろ人がなくなったりゆくえふめいの人をいるので、ゆくえふめいの人を早く見つけて自ぜんをとりもどして前の生活にもどってほしいとねがっています。しん災のときは、ぼくは、よく分からないんですけど体人でいてぼくは、家に行きました。でも家がすごくゆれて物がいっぱい落ちてきてテーブルの下にかくれて、お父さんとおばあちゃんは、にげる場所をきめてじしんがおさまるまでテーブルの下にかくれてテレビをつけてどうゆうじょうきょうかテレビでながれていました。海の近くのいえやお店などがながされてぼくがかよっていたようちえんもうみの近くなのでながされてのこったのは、下のぶぶんだけでした。回りのいえは全部流されてしまいました。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

992

氏名 鈴木 琉世　年齢 10 歳　職業・学校名 大浦小学校

ぼくは、東日本大しん災があり、かながわのしんせきの家やうちごうのおばあちゃんの家にひっこしていました。そのとき、ぼくは、ようちえんせいの年中だったので、大きなゆれがあることしか分からなかりませんでした。ひっこしした理由が、分かったのは、ひっこした後お父さんやお母さんに教えてもらって分かりました。東日本大しん災の時のようすをお父さんから少しききました。そしたら、町の中はまっくらだったけれどしんごうきだけはついていたいたことが分かって、ぼくは大きなじしんがあっても、しんごうがついていたから、ぼくは命は大切ということが、人とごろしはいけないということを、ようちえんの年中でべんきょうし、今はそんなことが自分では、じょうしきです。でも、大人になったらそのじょうしきをわすれないように頭にたたきつけたいと思います。後、大きなじしんがないことをいのっています。もし、じしんがきたら自分でできることをしたいです。

(20文字 X 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙　993

氏名 愛川 優佳　年齢 9 歳　職業・学校名 大浦小学校

わたしがすんでいるいわき市は海や山などたくさんの自然にかこまれている町なので、大好きです。東日本大しん災では地しんの他につなみもきました。海の近いところでは、家がながされたり、海が近くなったり、前とは少し変わりました。

今では、防波堤ができたり、津波のあとかかたづけられたり、道路が新しくなってきました。自然災害にも負けない安全な町になってきていると思います。

放射線量もへり、食べ物も安心して食べられます。わたしの家ではお米もつくっているし、おばあちゃんとおじいちゃんがつくった野菜もおいしく食べています。そのなかでもとくにとうもろこしがあまくておいしいから大好きです。

自然のこわさを知りました。でもわたしは自然がいっぱいのこの町が大好きなので、自然を大切に家族や友達と協力しあって、毎日をすごしていきたいと思います。

(20文字 X 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 酒井 郁士　年齢 ９ 歳　職業・学校名 大浦小学校

あのころぼくは、まだ５才でした。地しんが発生した時、ぼくは、車の中にいました。ちょうど、おねえちゃんを学校にむかえにいく時でした。今までにない、大きなゆれとともに、不安がこみあげてきました。「お父さんは、だいじょうぶかな。」「おねえちゃんもきっと不安だよね。」「おじいちゃんとおばあちゃんもだいじょうぶかな。」と、いろんなことがうかんできて、ぼくの不安は、さらに大きくなりました。げんぱつがばくはつしたのを知り家族やいとこ全員で、ひなんしたということをお母さんに教えてもらいました。でもぼくが覚えていることが一つあります。それは、つなみが入ったおばあちゃんの家のこうけいです。おばあちゃんたちはどれだけつらい思いをしたのかなと、今４年生になったぼくはそう感じています。ぼくには、３才の妹がいますがしん災を体験していません。だから妹にぼくが大人になったら、しん災の事を教えてわすれないでいてもらいたいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 酒井[illegible]士　年齢 9 歳　職業・学校名 大浦

ぼくは、しん災の時まだ5才でした。
地しんが発生した時、お姉ちゃんのむかえに行くところで車の中にいました。お母さんといっしょだったけどとてもこわかったのを覚えています。おばあちゃんたちや、お父さんお姉ちゃんがだいじょうぶか不安でした。地しんが発生した次の日おばちゃんの家を見いきました。海が近かったのでつ波でどろどろになっていました。「かたづけが大変そう」「ぼくたちよりもっとつらい思いをしているだろうな」と今4年生になったぼくは思っています。おばあちゃんたちだけではなくいろんな人がたくさんつらい思いをしたんだとあらためて思っています。そこでぼくは人の役にたちたいと思いました。ぼくのしょう来のゆめは、バスケットボール選手になることです。だからバスケットを通して人を笑顔にしたいと考えています。

(20文字 X 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 稲野辺 雅也　年齢 10 歳　職業・学校名 大浦小学校

東日本大震災の時、ぼくは保育園のねんちょうでした。あの時は部屋の中でお昼ねの時間でした。急にゆれはじめて先生が下にぼくたちをかくしてくれました。女の子たちはみんな泣いていましたがぼくは泣かなかったけどこわかったのを今でもおぼえています。少したったら、先生がひなんしましょうといって近くの坂の上の家にひなんしました。お母さんがむかえに来てくれるがすごく不安でした。むかえにきてからすぐ中学校にひなんしました。その時氷みたいな物がふってきてとてもさむかったきおくがあります。大つ波が来たよと聞き家もながされたと聞すごくかなしくなりました。夜は中学校の坂のとちゅうに車をとめて外を見たら、ぼくの家の近くは赤くなっていました。火事とばくはつ音がすごくこわい夜でした。三日目からは四倉高校にひなんをしました。ダンボールにが工夫をしながらねました。毎日カレーかパンを食べましたでもたくさんの友達が出来ました。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 長谷川 [illegible]　年齢 10 歳　職業・学校名 長谷川 [illegible]

　わたしは、東日本大しんさいでは、水や火がでなくて、さらなどがあらえなくてラップで、さらの上にひいて、たべたりしていました。

　そして、わたしは、トイレが、つかえなくトイレの中にためて、水がとうるようになったら、トイレポンプで、なおして、つかいました。

ごはんがすいはんきでたけなかったもので、パンをまいにちたべていた時がありました。

　わたしは、さいしょは、ゆもとのひいおばあちゃんの家にいってからおとこの家にいまました。

それから、わたしの家にもどって、ようち園にいきました。

　それでも、たなのものやかびんがわれていたそうです。

　わたしの、思い出のところお分合海でいろいろなけいけんがあるので、早くふっこうをしてもらい、また新しい思い出を作りです。

（20文字 X 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 阿部 南　年齢 10 歳　職業・学校名 大浦小学校

東日本大震災からもう5年がたちます。私は、あの時のことを思い出すとむねがいたいです。私はその時、ほ育園の年少ぐらいだったのでなにがおこったのかさっぱり分かりませんでした。でもまどの外を見ると土がばきばきといってカミナリがおちた見たいにひびがはいっていました。そこに消防団みたいにオレンジ色の服を来た人たちが来て私たちをだきかかえて安全な場所へつれて行ってくれました。そしてバスにのって大浦小学校へ行きました。大浦小学校についてようやく家族に会えました。その時姉は小学6年で大浦小学校にいて家族全員に会えました。それからときどき小さいゆれの地じんが来たりとこわかったです。そしてこおり山市にあるビックパレットにひなんしてすこし安心しました。家にもどれるようになって家に帰ったら多くのしょっきとかがわれていてびっくりしました。私はまだ小さくて分からなかったけれど今思うとてもこわかったです。

（20文字 X 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 櫻田 明穂奈　年齢 12 歳　職業・学校名 いわき市立大浦小学校

3月11日。午後、教室の窓から空を見ると海側の雲がうすい紫色で今までに、見たことがない雲を私は見ました。今思うとそれは、地震雲だったのかもしれません。集団下校で外で他の学年の人を待っていた時、地面から感じたことのないきれつの音が体で感じ、その瞬間、大きな揺れが私達を襲い、周りからは、だれかが泣いている声が今でも胸に焼き付いています。震災後、青森にひ難した際、3日間ぐらいストレスからか、食欲がなく、高熱をだしたことを覚えています。

震災からもうすぐ5年がたとうとしています。今では、原子力発電所の事故もあまりえいきょう無く、外で活動をしています。しかし、原子力発電所の事故や津波のえいきょうで、仮設住たくに住んでいる人、まだ今でも親せきなど、人々が見つからないことなど、震災によって苦しんでいる人は、居ると思います。より良い未来のために、幸せに暮らせるように、復興をがんばってほしいです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 酒井 美[illegible]　年齢 12歳　職業・学校名 大浦小

　私たちは東日本大震災では下校する前におこりました。一回目は教室で少しゆれた後、二回目は、全校生で帰る時にたくさんゆれました。その時は泣いている人が多くて、私も泣いてしまいました。じ面が割れたりして水がふんすいみたいにじ面からでてきてとてもこわかったです。私は家族と大浦小学校の体育館にひなんしていました。朝や昼、夜などはカンパンでした。その後私たちは北茨ばらきに行きました。

　私は復興への思いは、津波が来てもだいじうぶなようにしてほしいです。理由は、私は家が海や川に近いので、とてもたいへんでした。でも、水がはしでとまってこなかったときいて家がなくならなくてよかったと思ったからです。

（20文字 × 20行）